

希望を胸に満州に出向いた彼らがなぜ国から捨てられたのか

2008年第82回キネマ旬報文化映画ベストテン第1位

2008年日本映画ペンクラブ賞文化映画部門ベスト1

2008年東京国際女性映画祭オープニング作品

# 「嗚呼 満蒙開拓団」

あ あ まん もう かい たく だん

(2008年 製作・配給:自由工房)

国策として満洲に送られた開拓団は、  
敗戦時に日本政府と関東軍に棄てられた…  
死の逃避行の末、行き着いた先は…  
戦争と人間、国家の姿を問いながら、  
残留孤児の過去・現在・未来を映すドキュメンタリー！



はねだすみこ

## 羽田澄子監督作品

1926年、旧満州大連生まれ。自由学園高等科卒業後、50年に岩波映画の設立とともに入社。羽仁進監督の助監督についた後、57年「村の婦人学級」で監督デビューして以来、90本を超すドキュメンタリーを手がける女性監督の第一人者。フリーになった翌年の82年に「早池峰の賦」で芸術選奨文部大臣賞。日本の社会に問題を投げかけつづけている。山形国際ドキュメンタリー映画祭には何回も参加しており、1999年にはインターナショナル・コンペティション部門の審査員をつとめている。(代表作『終りよければすべてよし』『安心して老いるために』など)

**2009年8月8日(土)9日(日) 上映+残留孤児のトーク**

**上映時間** 10:00~/14:00~ (カラー120分)

—上映期間中会場ロビーにて展示あり—

**会場**：仙台フォーラム TEL 022(728)7866  
仙台市青葉区木町通 2-1-33 (地下鉄北四番丁駅徒歩2分)

**前売特別料金 1,000円 当日料金 1,800円**

\*各回定員100名 定員になり次第受付終了します。ご了承ください

主催：『嗚呼 満蒙開拓団』上映実行委員会

共催：東北地方中国残留孤児を支援する宮城の会 日中友好雄鷹会東北地方本部  
東北地方中国残留孤児国賠訴訟原告団(元) みやぎヒューマンドキュメンタリーを観る会  
日中友好雄鷹会学生サークル『熊猫(シュンマオ)』

後援：社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 河北新報社 毎日新聞仙台支局 朝日新聞仙台総局  
読売新聞東北総局 ミヤギテレビ TBC東北放送 仙台放送 東日本放送

◆チケット・お問い合わせ◆ (お申し込みの際は予約日時をご指定ください)

実行委員長 広瀬剛史(ひろせつよし) TEL 090(5402)9952

FAX 022(225)3369 E-mail duuk39@yahoo.co.jp

仙台フォーラム TEL 022(728)7866

上映期間：本企画のほか仙台フォーラムにて2週間上映 - 8月21日(金)まで(時間未定)

## この映画が語ってくれること

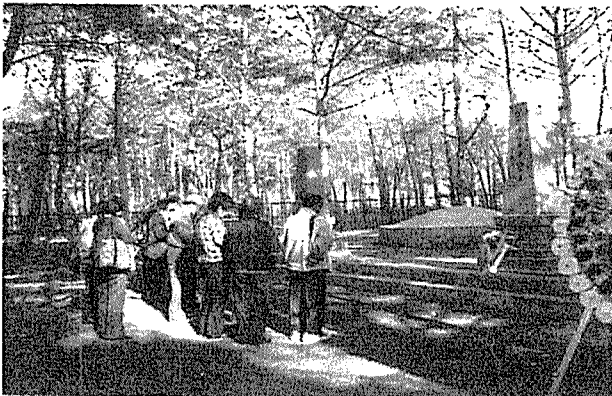
### なぜ終戦直前まで開拓団は満州に希望を見たのか…



満州、方正の地

日本政府は、疲弊しきった日本の農村部に、満州は、『王道楽土』であり、『五族協和』であると宣伝しました。満州の広大な大地には未来がある！ そう思い込まされた人が、さらに強制的に送られた人も含め27万人とも、32万人ともいわれる人々が、満蒙開拓団として送られたのです。

### 日本が侵略したはずの中国に建てられた満州移民日本人公墓



方正県にたてられた日本人公墓

山形県出身の松田ちるさんは、満蒙開拓団として満州に行き、残留婦人となった一人です。満州の地で命尽き果てた、たくさんの日本人がいます。その状況を目の当たりにしてきた松田さんの失われた命に対する想いが、周恩来総理に届きました。

### たくさんの人が、満州に出向いた



長野県泰阜村

貧しい農村が多かった宮城は、開拓団創出全国3位で10000人以上を送りだしました。ソ連侵攻時、亡くなった方、家族が離ればなれになった方がたくさんいます。満州は、決して過ぎ去ってしまったことではありません。

現在も中国残留孤児やその家族が宮城県で生活し、様々な困難を抱えています。

残留孤児たちが全国各地で裁判を起こし、新支援策ができましたが、二世・三世含め残された問題も数多くあるのです。

### 満蒙開拓団とこの映画について……羽田澄子

私は旧満州の一部と見られていた関東州の大連に生まれ、小学校も女学校も旅順。そして戦後引き揚げてきました。しかし、同じ満州でも最南端の都会に暮らしていた私は、戦後満州の奥地で起きていたことを知りませんでした。知ることになったのは1981年、「中国残留日本人孤児」の訪日調査がはじまり、さらに2002年に中国「残留孤児」国家賠償請求訴訟が始まったことがきっかけでした。裁判がどうなるかと見守っている間に、中国東北地区の方正（ほうまさ）県にある「方正地区日本人公墓」のことを偶然知ることになりました。

方正地区には、ソ連の満州進駐、日本の敗戦によって、満州の奥地から多くの開拓民が避難してきて、ここで数千人もの人が亡くなっているのです。「この人たちの遺骨をお墓に」と願った、ある残留婦人の思いを受け止めたのは中国の周恩来総理でした。周恩来の指示によって、中国方正県政府が建設したのが「方正地区日本人公墓」なのです。「お国のため」と送り込まれた満州移民は敗戦によって、遺棄されたのも同然となりました。その体験者の多くはすでに亡くなっていますが、多くの方に取材し、日本の近現代史を振り返り、日中友好が大切であることを考えました。